

平成29年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズを踏まえ、各館の特色を生かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるとともに、各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

所蔵作品展では、引き続き特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実を努め、約100年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「彫刻を作る／語る／見る／聞く」、「難民（仮称）」等を開催する。

企画展では、樂家15代の作品をかつてない規模で紹介する「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」（京都国立近代美術館より巡回）、世界で注目される日本の住宅建築の系譜を包括的にたどる初の試みである「日本住宅建築展（仮称）」、明治から昭和までを生き抜いた洋画家、熊谷守一の画業を紹介する大規模回顧展を開催する。

〈工芸館〉

工芸館開館40周年を記念し、所蔵作品の魅力を改めて実感できる展覧会を開催する。

所蔵作品展では、恒例となっている夏季の子供企画において工芸の歴史的展開を検証する。会期中は、子供用の「セルフガイド」を用意し、一般観覧者向けにはパネルやキャプションサイズの解説等を配置し、工芸の基礎的な知識の普及に努める。冬季には、明治150年にあわせ、約3年にわたる修復・復元を行ってきた鈴木長吉《十二の鷹》をお披露目するとともに、明治時代の工芸作品にスポットを当てた展示を行う。また、時代を越えて人々を魅了してきた近・現代の工芸の名品を特集し、所蔵作品の新たな魅力の

紹介と活用を図る。

企画展では、没後10年となる陶芸家・辻清明の作陶の歩みとともに、同時代の工芸家の名品を所蔵作品を中心に展示紹介する。加えて、本館ギャラリー4では、前年度に引き続きデザイン特別展としてモダン・デザインを代表するマルセル・ブロイヤーの家具に焦点をあてた展覧会を開催する。

〈フィルムセンター〉

上映会では、日本映画を代表する映画人の業績を顕彰する企画として、現役映画人に焦点をあてた「映画プロデューサー 佐々木史朗」、「ドキュメンタリー作家 羽田澄子 Part2 (仮称)」、「自選シリーズ 現代日本の映画監督 6 (仮称)」と、近年の物語者を回顧する「特集・逝ける映画人を偲んで 2015-2016」を開催する。また、上映企画「よみがえるフィルムと技術」「ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント コレクション (仮称)」、「発掘された映画たち 2018」「京橋映画小劇場No.35 アンコール特集 (仮称)」や、上映機会が少ない無声映画作品を紹介する「シネマの冒険 闇と音楽 2017」を開催する。共催企画では、恒例となった「PFF」や「EU フィルムデーズ」のほか、ジョージ・イーストマン博物館の協力による「ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション (仮称)」や、チェコ国立映画アーカイブ並びにチェコセンターとの共同主催による「国交回復 60 周年 チェコ映画の全貌 (仮称)」など、共催によって可能となるプログラムの実施にも積極的に取り組む。海外アーカイブとの企画では日本語字幕を作成し、国内に巡回させるなど、多彩な鑑賞機会の提供を図る。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」を継続するとともに、日本の人形アニメーションの先駆者持永只仁をめぐる展覧会、生誕 100 年を迎えるフランスの巨匠監督ジャン＝ピエール・メルヴィルの展覧会、「ポスターでみる映画史」シリーズの第3回として怪獣・SF 映画のポスター展を開催する。さらに、展覧会と連動した効果的な上映のあり方や教育普及企画についても様々な取組を試みるとともに、所蔵コレクションのより効果的な公開を目指し、トーク等の事業を充実させる。

〈京都国立近代美術館〉

所蔵作品展では、企画展に連動したテーマや小企画を実施するとともに、年間6回の展示替えてコレクションを紹介する。また、キュレトリアル・スタディーズとして研究員の発表の場を設ける。

企画展では、前年度に引き続き「endless 山田正亮の絵画」を開催し、現代美術家の山田正亮を検証する。「戦後ドイツの映画ポスター」は、東京国立近代美術館フィルムセンター（以下「フィルムセンター」という。）との共同事業により開催するポスターの展覧会で、コレクション・ギャラリーの一部を用いて開催する。「技を極める—ヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」では、フランスを代表するヴァン クリーフ&アーペルのハイジュエリーと現代の人間国宝等による日本の工芸の技の極致を示す最新作を並べて展示し、技と文化の「未来」を示す。「絹谷幸二展 (仮称)」では、色彩豊かでエネルギーに満ち溢れたアフレスコ画で知られる絹谷幸二の初期から

最新作に至るまでの足跡を振り返り、絹谷芸術の全貌を明らかにする。「岡本神草展（仮称）」は、神草を取り上げた初の大規模回顧展であり、本画だけでなく、資料や関連作品も駆使し、近代の京都画壇において特異な女性像を描き続けた神草の全容を紹介する。「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」では、オランダのファン・ゴッホ美術館と連携し、ゴッホが日本美術から影響を受けた作品やゴッホに憧れた日本人という相互関係を通じて、ゴッホの魅力を紹介する。

（国立西洋美術館）

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示をするとともに、版画素描展示室においてル・コルビュジエに関連した小企画展を開催する。また、前年度に引き続き「スケーエン：デンマークの芸術家村」を開催する。

企画展では、「シャセリオー展 —19 世紀フランス・ロマン主義の異才」を開催するほか、「アルチンボルド展」ではこれまで十分な紹介がなされてこなかったアルチンボルドの芸術の全貌を、様々な観点のもとに展覧する。「北斎とジャポニスム HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」は北斎が 19 世紀及び 20 世紀初頭の西洋美術に与えた影響を、北斎と西洋美術作品の比較を通じて検証する。「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」は 17 世紀スペイン絵画を、ベラスケスを軸としつつ概観する。

（国立国際美術館）

所蔵作品展では、企画展「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」開催に合わせ、ライアン・ガンダー本人の監修の下、所蔵作品を新鮮な組み合わせで展示することを試みる。

企画展では、前年度に引き続き「おとろえぬ情熱、走る筆。ピエール・アレシンスキー展」を開催するほか、すぐれた造形感覚や現代性が高く評価されているライアン・ガンダーの展覧会「ライアン・ガンダー —この翼は飛ぶためのものではない」、大阪を拠点に活動する彫刻家・福岡道雄の60余年にわたる制作の軌跡を紹介する展覧会「福岡道雄 つくらない彫刻家」、日本現代美術の変革期を捉え続けてきた写真家安齊重男の仕事を紹介する「態度が形になるとき —安齊重男による日本の70年代美術—」、国立国際美術館開館40周年に伴う「開館40周年記念展「one after another」（仮称）」を開催する。また、共催展では、前年度に引き続き「クラーナハ展—500年後の誘惑」を開催するほか、「ボイマンス美術館所蔵ブリューゲル「バベルの塔」展 16世紀ネーデルラントの至宝—ボスを超えて—」を開催し、幅広い層の関心に応じる。

（国立新美術館）

前年度に開幕した「国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂」は、日本が世界に誇る現代作家の初期作品から最新作までを展示する大規模な個展である。同じく前年度に始まった「国立新美術館開館 10 周年 チェコ文化年事業 ミュシャ展」は、チェコの代表的な画家アルフォンス・ミュシャの壮大な連作《スラヴ叙事詩》を一堂に展示する画期的な企画である。これら2展に加えて、平成 29 年度に新たに開幕する展覧会は6本である。「国立新美術館開館 10 周年 ジャコメッティ展」は、20 世紀を代表する

彫刻家の初期から晩年までの足跡を、代表作とともに辿る大規模な回顧展である。ASEAN 創立 50 周年を記念する「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで」は、森美術館との同時開催の展覧会であり、現地での綿密な調査を通じて選ばれた作家たちのエネルギッシュな表現で構成される。「新海誠展 「ほしのこえ」 から「君の名は。」まで」は、映画『君の名は。』で人気を博した同監督の世界を、展覧会というかたちで紹介する。「国立新美術館開館 10 周年 安藤忠雄展—挑戦—」では、既成概念を打ち破ることで、建築の新たな地平を切り開いてきた稀代の建築家の、半世紀に及ぶ活動の軌跡を追う。「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」では、長い間広く一般には公開されてこなかった同コレクションから、フランス近代絵画に焦点をあてた選りすぐりの優品を紹介する。

- ①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、引き続き、交換展・共同企画展の充実と、所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、5 館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連携について検討する。

- ①-3 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。

- ② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「国立西洋美術館所蔵 ミューズ：まなざしの先の女性たち」

(担当館：国立西洋美術館)

(ア) 期間：平成29年4月22日(土)～7月2日(日) (62日間)

会場：福島県立美術館(福島県福島市)

(イ) 期間：平成29年7月15日(土)～9月18日(月・祝) (66日間)

会場：秋田県立近代美術館(秋田県横手市)

イ 各館の巡回展

「東京国立近代美術館工芸館名品展(仮称)」

(ア) 期間：平成29年8月10日(木)～9月10日(日) (28日間)

会場：高岡市美術館(富山県高岡市)

(イ) 期間：平成29年11月3日(金・祝)～12月24日(日) (43日間)

会場：新潟市美術館(新潟県新潟市)

「東京国立近代美術館工芸館 陶芸の名作(仮称)」

(ア) 期間：平成29年11月10日(金)～12月17日(日) (37日間)

会場：石川県立美術館(石川県金沢市)

ウ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：25 プログラム 100 作品（1 プログラム 4 作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：平成29年7月～平成30年3月（予定）

会場：全国190会場（予定）

エ 巡回上映等

（ア）「蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集」

期間：平成29年6月～平成30年3月（予定）

会場：全国3会場（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター、各実施会場

（イ）「NFC所蔵作品選集 MoMAK Films」（年4回）

期間：平成29年5月12日（金）～14日（日）、7月21日（金）～22日（土）、9月23日（土）～24日（日）、12月1日（金）～2日（土）（予定）

会場・共催：京都国立近代美術館

（ウ）「第15回中之島映像劇場—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による」

期間：平成30年3月（予定）

会場・共催：国立国際美術館

（エ）「新千歳空港国際アニメーション映画祭 2017」

期間：平成29年11月（予定）

会場：ソラシネマチとせ（北海道千歳市）

共催：新千歳空港国際アニメーション映画祭実行委員会

（オ）「東京国際フォーラム＋東京国立近代美術館フィルムセンター 月曜シネサロン & トーク 東京国際フォーラムで会いましょう。」

期間：平成29年6～7月、9月、11～12月、平成30年2～3月（予定）

会場・共催：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

（2）美術創造活動の活性化の推進

① 国際的に注目されるメディアアート、マンガ、アニメ、建築、デザイン、ファッション等の様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、「日本住宅建築展（仮称）」において、世界で注目される日本の住宅建築の系譜を初めて包括的に紹介する[再掲]。所蔵作品展「MOMAT コレクション」においては、1970年代以降の美術動向中重要な位置を占める映像作品

の収集・展示に引き続き力を入れるとともに、フィルムセンターとも協働し、各時代の世相を示す映像資料を展示内で活用する。

イ フィルムセンターでは、平成29年に日本におけるアニメーション映画製作が100年を迎える歴史的意義を踏まえ、映画製作会社や業界団体、国内外の所蔵機関等の協力を得て、国内に残存する日本アニメーション映画の発掘・収集や復元を通して所蔵の充実を図るとともに、主催事業や貸与等を通して、その成果を紹介する。また、「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（以下「BDCプロジェクト」という。）において、ファイル化した所蔵日本アニメーション映画のストリーミングによる公開を継続して行う。これらのネット公開を活用し、教育普及企画の「こども映画館（仮称）」や「映画の教室（仮称）」等において、日本アニメーション映画をテーマにしたプログラムを試行的に開催する。さらにその成果の一部を京都国立近代美術館において試行的に巡回上映し、館外での人材育成活動に有用な教材及びそのプログラムを検証する。

ウ 京都国立近代美術館では、「技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸」において、フランスを代表するヴァン クリーフ&アーペルのハイジュエリーと現代の人間国宝等による日本の工芸の技の極致を示す最新作を並べて展示し、技と文化の「未来」を示す〔再掲〕。

エ 国立国際美術館では、「ライアン・ガンダーーーこの翼は飛ぶためのものではない」及び「開館40周年記念展「one after another」（仮称）」において、映像表現を含む展示を実施する〔再掲〕。「開館40周年記念展「one after another」（仮称）」においては新たにパフォーマンス作品を紹介する。

オ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。

（ア）世界的な現代作家である草間彌生の大回顧展「国立新美術館開館 10 周年 草間彌生 わが永遠の魂」において、映像作品をはじめ多岐に渡るジャンルの作品を通じて、その特異な芸術世界を紹介する〔再掲〕。

（イ）「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980 年代から現在まで」では、これまで目に触れる機会がすくなかった同地域の新しい美術の表現を、森美術館との同時開催という大規模な展覧会として紹介する〔再掲〕。

（ウ）「国立新美術館開館 10 周年 安藤忠雄展ー挑戦ー」では、国際的に高く評価されている建築家、安藤忠雄の足跡を、実際の建築の大規模な再現等を交えつつ振り返る〔再掲〕。

（エ）「新海誠展 「ほしのこえ」から「君の名は。」まで」では、海外でも人気の高いアニメーションの世界で独自の世界を切り開いている同監督の世界を紹介する〔再掲〕。

（オ）平成 27 年度に開催した「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」を刷新した内容で構成した展覧会「キャラクターVS.都市：虚構×現実」の海外巡回の準備を進める。

（カ）アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2017」を共催するとともに、「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2017」及び「イントゥ・アニメーション」に特別協力する。また、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

(キ) 講堂や地下1階等に設置された館内映像設備を活用し、アニメーション作品をはじめとするメディアアートを上映する。

② 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。

ア 平成29年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。

イ 平成31年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実に努めるとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

美術に関する情報の拠点としての機能を向上させ、国民の美術に関する理解の促進に寄与するとともに、長期的には、日本・アジアにおける西洋美術の、また世界における日本近・現代美術の研究の中心となることを目指し、平成26年度に設置した「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」において引き続き検討を進める。

① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実に努め、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、前年度に実施した平成18年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。また、国立美術館の公開情報資源（国立美術館所蔵作品総合目録検索システム、東京国立近代美術館・国立新美術館図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品データベース及び国立新美術館アートコモンズ等）を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発を進めるとともに、国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び文化庁文化遺産オンラインとの連携を継続維持するための調査研究を実施する。

このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

(東京国立近代美術館)

ア 研究紀要22号（平成29年度刊行予定）の全文を、平成30年3月をめどにホームページで公開する。

イ ホームページの更なる機能向上に向けての知見の蓄積を図る。また、ソーシャル・ネットワーク・サービス（以下「SNS」という。）を活用し、積極的に情報を発信する。

ウ フィルムセンターでは、定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容の充実と、ホームページ、メールマガジン、SNS等を活用した積極的な情報発信に努める。

エ フィルムセンターでは、BDCプロジェクトと連動した所蔵映画フィルム及び関連資料のデジタル化の推進に加え、国立情報学研究所等と連携協力したweb公開やメタデータに関する調査研究を行う。

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報

の充実を図る。さらに、SNSを活用し、積極的に情報を発信する。

イ コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

ウ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、引き続きホームページ上で公開する。

(国立西洋美術館)

ア 専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて日英2ヶ国語で公開し、国内外の研究促進に貢献する。

イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。

ウ 広報の情報発信として、展覧会活動その他の活動状況を日英2ヶ国語のホームページやSNSを通じて積極的に発信する。

エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

(国立国際美術館)

ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらにSNSを活用し、積極的に情報を発信する。

イ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。

(国立新美術館)

ア SNS等を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。適時、メールマガジンを配信するとともに、ホームページ上などで登録者の募集を引き続き行う。平成27年度に実施したホームページのリニューアルを起点として、スマートフォン等でも使いやすいホームページを引き続き整備し、利用者の利便性の向上を目指す。

イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を引き続き検討し、情報資源の積極的な活用を図る。

ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を引き続き実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

(東京国立近代美術館)

ア 近・現代美術関連資料を本館アートライブラリ、近・現代工芸関連資料を工芸館図書閲覧室、映画関連の図書資料をフィルムセンター図書室において収集し、公開する活動を継続的に進める。

イ 「本館・工芸館企画展出品作家索引」を維持し、データベース化してホームページに公開しその活用を促す。

(京都国立近代美術館)

新たな図書管理システムにより、近・現代美術関連資料の公開に向けた取組を引き続き行う。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。収集資料は研究資料センターにおいて外部利用者にも閲覧可能とする。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、「アート・ディスカバリー・グループ目録」(Art Discovery Group Catalogue)への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 東京文化財研究所と平成28年6月に締結した「美術工芸品を中心とする文化財情報の国内外への発信にかかる基盤形成事業」に基づき、同所による日本の文化財情報の国際発信力強化を支援する。

エ 松方コレクション及び前年度に寄託を受けた林忠正書簡等の研究資源の公開に向けた検討を行う。

(国立国際美術館)

資料室において所蔵する図書及び美術資料を外部利用者に公開する活動を将来的に行うため、引き続きデータベース整備を行う。

(国立新美術館)

ア 引き続き国内美術展カタログの海外への寄贈事業(Japan Art Catalogプロジェクト)の充実を図るとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料アーカイブの構築と公開を進める。

イ 「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、「アートコモンズ」の収録展覧会情報を広く活用するために文化庁が実施する「文化情報基盤」との連携等を行う。

- ③ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を強化する。そのためのバックアップ用VPN(バーチャル・プライベート・ネットワーク)回線を維持する。

（４）教育普及活動の充実

- ① 引き続き、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

所蔵作品展、企画展ともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生の発達段階に応じた鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するアーティスト・トーク、キュレーター・トーク、解説ボランティア（本館ガイドスタッフ）による所蔵品ガイドやハイライト・ツアーの実施

ウ 企画展に関する教員のためのレクチャー付き鑑賞会、小・中学生向けの「セルフガイド」の会場配布

エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、教員研修の実施

オ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会）との連携による研修への協力

カ 夏季の所蔵作品展に関する小学校中学年までを対象とした鑑賞教室「こども美術館」と小学校高学年から中学生までを対象とした「トークラリー」の実施及び未就学児とその親を対象とした「おやこでトーク」の実施

〈工芸館〉

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の他、観覧者の層に応じた様々な教育プログラムを実施する。

ア 企画展及び所蔵作品展に関する講演会やシンポジウム、アーティスト・トーク、ギャラリートークの実施

イ 企画展及び所蔵作品展に関する解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）による鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の実施

ウ 小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、研修等への協力

エ 各種教育機関からの要請に応じた、児童・生徒に対するギャラリートークや「タッチ&トーク」の実施

オ 夏季の所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語、英語）及び一般観覧者向けの「鑑賞カード」の作成・配布、未就学児から小学校低学年までを対象とした鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」、子供連れの来館者を対象とした「家族でタッチ&トーク」、親子のための言語活動と作品理解の共有を目的としたワーク

ショップの実施

カ 作家との協力により小学校高学年から中学生を対象としたワークショップの実施

〈フィルムセンター〉

映画及び映画保存に関して、幅広い層にあわせた教育普及プログラムを実施する。特に、若い世代を対象とした鑑賞教育と、映画保存に関わる人材育成プログラムについては、学校や関連団体と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施

イ フィルムセンターが新たに復元した映画の上映と講演会の実施

ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館（仮称）」の実施

エ ポーランド大使館等との共催で各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機会を提供する「V4中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施

オ 「こども映画館（仮称）」巡回上映の試行実施（京都国立近代美術館ほか）

カ 映画及び映画保存に関わる人材育成プログラムとして、学生や社会人向けの「映画の教室（仮称）」の試行的な実施

キ 映画保存に関わる人材育成プログラムとして、映画フィルムの映写と取扱い及び映画関連資料の取扱いに関するワークショップの試行的な開催

ク 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会や相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施

（京都国立近代美術館）

幅広い層の人々への美術鑑賞に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。

ア 小・中・高等学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携

イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援

ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施

エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

オ 京都市教育委員会等との共催による小・中学校教員を対象とした鑑賞における指導力向上講座の開催

（国立西洋美術館）

より多くの人々に美術と美術館に親しんでもらえるように、所蔵作品展と企画展の双方に関連して多様なプログラムを実施する。また、学校、家族、障がいのある人といった特定の対象に向けたプログラムを提供するなど、社会的包摂も視野に入れて活動するよう努める。

ア 「スクール・ギャラリートーク」（小・中・高等学校の団体対象）の実施

イ 「美術トーク」（日曜日及び第1、第3、第5土曜日）及び「建築ツアー」（第2、

第4日曜日及び水曜日)の実施

- ウ ファミリー・プログラム「どうぶじゅつ」の実施
- エ ファン・ウィズ・コレクション（本館建築をテーマにする）の実施
- オ クリスマス・プログラム（トーク、クリスマスキャロル・コンサート等）の実施
- カ 企画展に関連した講演会とスライドトークの実施
- キ 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム（解説&無料観覧）」の実施
- ク 障がいのある人を対象とする特別プログラムの実施

(国立国際美術館)

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に合った学びを得られるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートーク、アーティストトーク等を開催するとともに、低年齢層も参加できる各種プログラムを実施する。また、各校種・研究団体と連携し、小・中・高等学校・特別支援学校へのより一層の鑑賞教育の充実を促進する。

- ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 小・中学生向け作品鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」の実施
- ウ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」の実施
- エ 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施
- オ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」・「アクティヴィティ・シート」・「アクティヴィティ・ブック」の作成及び配布
- カ 小・中・高等学校・特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施
- キ 「鑑賞学習を通じた学びを考える会」（小・中・高等学校・特別支援学校の教職員及び鑑賞教育の従事者を対象）の実施
- ク 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施
- ケ 大阪市教育センター、大阪府教育センター等との連携による研修会の実施

(国立新美術館)

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

- ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
- イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施
- ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施
- エ 鑑賞ガイドの作成及び配布
- オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施
- カ 美術や美術館をテーマとした館長とゲストによるトークイベントの実施
- キ ロビーコンサートの実施

② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を引き続き実施する。また、会員制度や入会特典等を整理し、新たな案内リーフレットを制作し、会員制度の拡充に努める。既存会員には有効期間終了時に、各会員に通知をし、継続を促す。

(本館)

ア 本館ガイドスタッフ（ボランティア）による、所蔵作品展の所蔵作品ガイド、「ハイライト・ツアー」及び夏季の児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」・「トークラリー」を実施する。

イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生の受入れ（スクール・プログラム）等、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とファシリテーション・スキルの向上を図る。

(工芸館)

ア 工芸館ガイドスタッフ（ボランティア）による、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」及び夏季の児童向けの鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」を実施する。

イ 工芸館ガイドスタッフによる、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室「英語タッチ&トーク」を実施する。

ウ 工芸館ガイドスタッフ（8期メンバー）の募集と養成研修を実施する。

エ 研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とトーク技術の向上を図る。

(京都国立近代美術館)

ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館と連携して会員証提示による優待割引を引き続き実施する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校生の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、週末の一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」を実施する。

イ ファミリープログラム「どうようびじゅつ」の共同企画及びボランティア企画によるプログラムの実施を通して、活動への意欲と積極性を促す。

ウ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する。

(国立国際美術館)

ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。

イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図るとともに、法人会員の加入に努める。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。

ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、別表2のとおり、各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

(東京国立近代美術館)

研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』、『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

〈本館〉

ア 展覧会に伴う図録を発行する。

イ 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」を発行する。

〈工芸館〉

ア 展覧会に伴う図録を発行する。

イ 夏季の所蔵作品展「こども×おとな工芸館（仮称）」において、児童生徒を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」（日本語、英語）を発行する。

ウ 一般来館者向けとして作品の情報と鑑賞のヒントを解説文と写真で紹介する「鑑賞カード」を発行する。

エ 平成16年度以降に収蔵した工芸作品及びデザイン作品全点を掲載した所蔵作品目録を発行する。

〈フィルムセンター〉

ア 『NFC ニュースレター』等を発行する。

イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。

（京都国立近代美術館）

ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『視る』、『京都国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の概説をホームページ上に公開する。

（国立西洋美術館）

ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、『国立西洋美術館ニュースZEPHYROS』、『国立西洋美術館報』等の刊行物を発行する。

イ 展覧会ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

ウ 『国立西洋美術館ボランティア活動報告』（2012年度・2015年度）を発行する。

（国立国際美術館）

ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

イ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」、「アクティヴィティ・シート」、「アクティヴィティ・ブック」を発行する。

（国立新美術館）

ア 研究紀要『NACT Review』、展覧会に伴う図録、『国立新美術館 活動報告』等の刊行物を発行する。

イ 鑑賞ガイドを発行する。

（6）快適な観覧環境等の提供

① 各館において、引き続き動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。

また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。

なお、引き続きアンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

（国立美術館全体）

ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多

言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。

イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）に可能な限り努める。

ウ 一般向けに国立美術館の紹介パンフレット（日本語、英語）を制作し、ホームページ上でも公開することで、国立美術館自体の認知度の向上及び集客に努める。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

ア 平成27年度に立ち上げたブランディング戦略プロジェクトチームの答申を基に、中長期的な活動計画の企画立案を行う。

イ ガイドマップ他を活用し、館のイメージ刷新や東京駅方面からの来館者の誘導に努める。

ウ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。

エ 館紹介パンフレット（日本語、英語）を配布する。また、ホームページ上にも掲載し、更なる周知に努める。

オ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。

カ 所蔵作品展において、小・中学生向けの「セルフガイド」を配布する。

キ 企画展において、可能な限り「フロアガイド」を配布する。

ク 国外の主要メディア（主に観光レジャー系）に館を紹介するプレスリリースを配信し、外国人の来館促進を図る。

ケ エントランスホールを含め、館内サイン環境や快適さを向上させるための具体策を策定、一部実施する。

コ 来館者サービス充実に向け、来館者の意見をより適正に把握するため、常設の電子アンケート（日本語、英語）を導入する。

サ 前年度より開始した土曜の夜間開館につき効果的な広報を行い、新しいライフスタイルを提案する。

シ 非来館者調査を行い、新しい観客層のニーズの把握を行う。

〈工芸館〉

ア 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した「鑑賞カード」の充実を図り、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。

イ 夏季の所蔵作品展「こども×おとな工芸館（仮称）」において、児童生徒を対象とした解説パンフレット「セルフガイド」（日本語、英語）を発行する。

〈フィルムセンター〉

ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。

イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上にも掲載し、更なる周知に努める。

ウ 大ホールでの上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。

エ 上映会の開催に際し、『NFC カレンダー』を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。

オ 以下の展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を作成・配布する。

- ・「人形アニメーション作家 持永只仁」
- ・「生誕 100 年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美（仮称）」
- ・「ポスターでみる映画史 Part 3 怪獣・SF 映画の世界（仮称）」

（京都国立近代美術館）

ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。

ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。

エ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを引き続き実施する。

オ デジタルサイネージ（日本語、英語、中国語、韓国語）を活用し館内案内の多言語化を図る。

（国立西洋美術館）

ア 国立西洋美術館ブリーフガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 企画展において小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。

ウ 平成28年7月、国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」が世界遺産に登録されたことを受け、国立西洋美術館の概要、本館に見られるル・コルビュジエの建築的特徴、今回の登録に係る7か国17資産の建物等を来館者に紹介するパンフレットの多言語対応（日本語、英語、中国語、韓国語）を進める。

（国立国際美術館）

ア 館概要リーフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 展覧会において、フロアガイドを配布する。

ウ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」、「アクティヴィティ・シート」、「アクティヴィティ・ブック」を配布する。

エ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。

（国立新美術館）

ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語）を配布する。

イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。

ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。

エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。

オ タブレットを介したテレビ電話形式による同時通訳システム（SMILE CALL）を導

入し、海外からの来館者対応を円滑にする。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

(国立美術館全体)

- ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化の普及広報に努める。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の利用者増加を図るため、学生向けウェブサイトの普及広報等に努めるなど、加入校増加を目指す。
- イ 東京国立近代美術館本館・工芸館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立国際美術館では、引き続き65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。
- ウ 所蔵作品展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
- エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。
- オ 「国際博物館の日」に当たっては、各館以下のような記念事業を実施する。
 - (ア) 東京国立近代美術館本館・工芸館、京都国立近代美術館及び国立西洋美術館では5月18日(木)を、国立国際美術館では5月20日(土)を所蔵作品展の無料観覧日とする。
 - (イ) フィルムセンターでは、5月18日(木)を展覧会の無料観覧日とする。
 - (ウ) 国立新美術館では、展覧会の実施形態に応じ、企画展及び公募展観覧料の無料化や割引観覧を実施する。
- カ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会の割引観覧を実施する。
- キ 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス2017」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- ク 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西2017」及び「KANSAI 18 MUSEUM 3-DAY FREE PASS」に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- ケ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会の観覧料の優待を実施する。

(東京国立近代美術館)

- ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会を観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。
- イ 企画展を含め、幅広く展覧会に親しんでもらうため、国立美術館各館の所蔵作品展及びフィルムセンターの展覧会並びに東京国立近代美術館本館・工芸館の企画展を観覧できる友の会の広報等に努める。

〈本館・工芸館〉

- ア 東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。
- イ 東京刊行情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。
- ウ クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。

〈フィルムセンター〉

- ア 大ホールと小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を行い来館者の鑑賞機会の増加に努める。
- イ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。
- ウ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。

（京都国立近代美術館）

- ア 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- イ 京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館との相互割引観覧の実現に努める。

（国立西洋美術館）

- ア クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。
- ウ 「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」（期間限定、年2回発行予定）を作成する。上野地区内の文化施設の相互連携により、商業施設も含めた観光客の誘致と回遊性の向上を図り、来館者サービスの充実と来館者の増員を目指す。

（国立国際美術館）

- ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「大阪周遊パス 2017」、大阪市交通局「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

（国立新美術館）

- ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。

- イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
- ウ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65歳以上の観覧者については、通常の割引後観覧料に代えて、大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。
- エ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
- オ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
- カ クレジットカード及び電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。
- キ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。

③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

- ア 東京国立近代美術館本館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの開発、席の拡充や営業時間の延長など来館者サービスの向上を図る。
- イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートの提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会にあわせた関連書籍やグッズをより充実させる。
- ウ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を推進するとともに、『国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS』やホームページで広報する。また、更なる来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズの開発、販売方法等を検討する。
- エ 国立国際美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を行うとともに、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。
- オ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

（１）作品の収集

- ①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで引き続き公開する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を積極的に行う。本年度は特に次の点について留意する。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

〈工芸館〉

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。

ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充

イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集

ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

(京都国立近代美術館)

ア 我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集も継続して行う。また、海外作品の充実を図るため、前衛的傾向を示す海外の美術作品についても、継続して収集を目指す。

イ 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を継続して図る。

(国立西洋美術館)

ア 15～20世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。

イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。

ウ 国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

ア 1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。

イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常の子

算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

（２）所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

各館における対策はもとより、収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化の抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進める。

また、新たな保管施設が整備されるまでの間、特に狭隘化が進んでいる東京国立近代美術館及び京都国立近代美術館の所蔵作品の一部を外部の民間保管施設に保管することで、美術作品の適正な保管と保全を図る。

（３）所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、引き続き作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、日本画の屏風等大型作品の修復、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工、金工作品の現状保存修復を行う。作品収蔵庫の燻蒸・クリーニング及び展示会場のクリーニングを継続して行う。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示できない美術作品を中心に保存修復処置を行う。経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、当館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の活用機会の多い近代絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を引き続き行う。近年寄贈を受けた作品の整理・調査を行い、保管処置及び保存修復作業を実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。

オ 国立国際美術館では、ロバート・ラウシェンバーグ《至点》等、検査を要する貴重な作品を中心に検査及び保存修復処置を行う。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい寄贈資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

（４）所蔵作品の貸与

所蔵作品について、その保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、法人内はもとより国内外での積極的な活用を図る。

前年度に引き続き、増大する貸与業務の安全化・効率化のため、修理・修復作業との連動を図るとともに、事前の採寸・箱作成、輸送指示等を一層徹底する。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、所蔵作品による巡回展や文化庁主催「日本のわざ

と美」等への貸与を計画的に実施する。

ウ 京都国立近代美術館では、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設からの借用依頼に積極的に対応する。

エ 国立西洋美術館では、「コレクターとしてのモネ展」（フランス・パリ、マルモッタン美術館）、「ゴッホ：錬金術師としての芸術家展」（フランス・パリ、オルセー美術館他）、「エドゥアール・マネ展」（ドイツ・ブッパタール、フォン・デル・ハイテ美術館）、「華麗なる宮廷美術展」（愛知県名古屋市、ヤマザキマザック美術館）等に貸与を行う。

オ 国立国際美術館では、作品の状態や同館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積極的に対応する。「ヴォルス 漂泊と凝視の詩人展（仮称）」（千葉県佐倉市、DIC川村記念美術館）、「生命と美の物語 LIFE—楽園をもとめて（仮称）」（富山県富山市、富山県美術館）等に貸与を行う。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

（１）国内外の美術館等との連携・協力等

① 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

ア 東京国立近代美術館本館では、「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」、「日本住宅建築展（仮称）」、「没後40年 熊谷守一展（仮称）」において、国内外から研究者を招くなどして講演会を開催する。

イ 京都国立近代美術館では、研究者等を招へいし、各展覧会の会期中に講演会を開催する。

ウ 国立西洋美術館では、「シャセリオー展 —19世紀フランス・ロマン主義の異才」、「アルチンボルド展」、「北斎とジャポニスム HOKUSAIが西洋に与えた衝撃」及び「プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」にあわせ、講演会を各展覧会数回ずつ開催する。

エ 国立国際美術館では、研究者を招へいし、各展覧会の会期中に講演会を実施する。

オ 国立新美術館では、企画展や美術及び教育普及に関する講演会及びセミナー等を開催する。また、企画展に関わるシンポジウムを開催する。

② 展覧会等の紹介や企画につき海外の美術館との連携・協力を図る。

ア 東京国立近代美術館では、イタリア国立21世紀美術館（イタリア・ローマ、平成28年11月9日～平成29年2月26日）及びバービカン・センター（イギリス・ロンドン、平成29年3月23日～6月25日）を巡回する「日本の住宅：1945年以降の建築と暮らし」に企画協力し、本館にて凱旋展を開催する。

イ 国立国際美術館では、前年度に開催した「森村泰昌：自画像の美術史—「私」と「わたし」が出会うとき」の規模を若干変更した上で、プーシキン美術館（ロシア・モスクワ、平成29年1月31日～4月9日）及びフォンダチオーネ・フォトグラフィア・モデナ（イタリア・モデナ、平成29年秋頃）に巡回させる。

③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、

企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

（２）ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。また、平成29年度より、会場を関東と関西の隔年交代で開催する。

あわせて、法人ホームページでの実施概要及び実施報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：平成29年7月31日（月）～8月1日（火）

会場：京都国立近代美術館

募集人員：約80名

ウ イの研修について教員免許更新講習として実施する。

②-1 公立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、アンケート調査の結果を踏まえ、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ フィルムセンターにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

エ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会等に関するガイダンスを実施し、良質な芸術作品に触れる鑑賞機会を積極的に提供する。

（３）国内外の映画関係団体等との連携等

フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら次の取組を実施する。

① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収

集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルムの収集を行う。また、アニメーション映画、デジタル復元による成果物、上映事業や国際交流事業に必要な映画、企業の管理下に置かれない自主製作映画や実験映画、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルム及びこれらのデジタル複製物の収集を行う。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、映画史の調査研究に資する資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

ア 公開当時の画調を忠実に再現するために、カメラマンの立ち会いの下、フィルム複製を行うとともに、必要なデータを保存する。

イ 「BDCプロジェクト」と連動し、フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材、デジタル映画から複製された保存用素材、上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。

- ② 多くの映画化が行なわれた無声期の『忠臣蔵』について、近年の発掘の成果を基に、最長版作成等の復元を図る。重文指定作品等、歴史資料として貴重な作品について、適切な復元を図る。70mmフィルム等大型映画の適切な保存・復元に向けての作業を継続する。可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図るとともに、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努める。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。

- ③ 保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの紹介を目的に、地方及び海外の同種機関や映画祭等に対し、貸与を通して上映会・展覧会の開催に協力する。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、引き続き配信等のデジタル・アクセスに対する検討を行う。

- ④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。

- ⑤ 海外において以下の共催上映を実施する。

ア 「ナイトレート・ピクチャー・ショー 2017『麥秋』上映会」

期間：平成29年5月5日（金）～5月7日（日）会期中1日、1回上映を予定

会場・共催：ジョージ・イーストマン博物館（アメリカ・ロチェスター）

イ 「知られざる日本映画（仮称）」

期間：平成29年秋（予定）

会場：スウェーデン映画協会シネマテーク（スウェーデン・ストックホルム）

共催：スウェーデン映画協会

（以後、他の北欧諸国での巡回について検討中）

- ⑥ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機

関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。

- ⑦ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑧ 「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館利用校）とともに、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。
- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力する。
- ⑩ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき、資源及び情報等を活用し、文化事業を連携・協力して行う。
- ⑪ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。
- ⑫ 全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収集し、映画資料を所蔵する機関との連携を図る。
- ⑬ より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内において他館と同列の一施設として東京国立近代美術館から独立した組織を設置するなど、その在り方について検討を進める。
- ⑭ コミュニティシネマセンターと連携し、「こども映画館（仮称）」の巡回上映実施に向けた調査・検討を行う。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

（１）省エネルギー

観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

（２）共同調達等の推進

共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、組織・体制の強化に努める。

3 契約の点検・見直し

「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（1回程度）により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレットペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗浄、脱臭器具の賃貸借

5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

また、平成29年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

国立美術館5館の情報システムネットワークの一元化を基盤として、引き続きTV会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPNバックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、予算の効率的な執行に努める。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の確保

施設利用等の施設貸出収入や会員制度による会費収入の増加などに取り組み、自己収入の増加を目指す。また、寄附金等外部資金の獲得促進に取り組む。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、引き続き外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

3 予算（年度計画の予算）

別紙のとおり。

4 収支計画

別紙のとおり。

5 資金計画

別紙のとおり。

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

（１）理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。

（２）国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。

また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

（３）内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を１回以上開催し、指摘内容について館長等会議等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

2 施設・設備に関する計画

（１）施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

平成 29 年度は、以下の施設・設備の整備等を進める。

（平成 28 年度予算措置に基づく施設整備）

ア 京都国立近代美術館 1 階講堂改修工事

イ 国立西洋美術館建築設備（自動扉・シャッター・5t クレーン）改修工事

ウ 国立西洋美術館昇降機改修工事

（平成 28 年度補正予算措置に基づく施設整備）

ア 国立美術館セキュリティ等対策工事

（２）国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

3 人事に関する計画

(1) 方針

① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

ア 新規採用者研修

イ 接遇研修

ウ ハラスメント、メンタルヘルスケアに関連する研修

エ 情報セキュリティ研修

② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度並びに特定有期雇用職員制度のより一層の活用を図る。

4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

5 その他

「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成 25 年 12 月 24 日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

3 予算(年度計画の予算)

平成29年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	7,537
展示事業等収入	1,210
寄附金収入	650
施設整備費補助金	2,010
計	11,407
支 出	
運営事業費	8,747
管理部門経費	995
うち人件費	392
うち一般管理費	603
事業部門経費	7,752
うち人件費	1,114
うち美術振興事業費	2,506
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	3,624
うちナショナルセンター事業費	508
寄附金事業費	650
施設整備費	2,010
計	11,407

4 収支計画

平成29年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,654
經常経費	5,654
管理部門経費	962
うち人件費	392
うち一般管理費	570
事業部門経費	3,875
うち人件費	1,114
うち美術振興事業費	2,423
うちナショナルコレクション形成・継承事業費	104
うちナショナルセンター事業費	234
寄附金事業費	650
減価償却費	167
収益の部	5,654
運営費交付金収益	3,627
展示事業等の収入	1,210
寄附金収益	650
資産見返運営費交付金戻入	153
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	11

5 資金計画

平成29年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	11,407
業務活動による支出	9,281
投資活動による支出	2,126
資金収入	11,407
業務活動による収入	9,397
運営費交付金による収入	7,537
展示事業等による収入	1,210
寄附金収入	650
投資活動による収入	2,010
施設整備費補助金による収入	2,010

別表1 平成29年度 所蔵作品展・企画展 計画

※所蔵作品展の入館者については、各館において、前中期目標期間における年間平均入館者数以上を目標とする。

目標入館者数	全館合計	2,875,000 人
	所蔵作品展	766,500 人
	企画展	2,021,000 人
	NFC上映会	74,000 人
	NFC展覧会	13,500 人

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	MOMATコレクション （「美術館の春まつり」， 「彫刻を作る／語る／見る／ 聞く」，「難民（仮称）」他 特集およびコレクションによ る小企画を含む）	－	2回展示替え	302	184,000	本館所蔵 作品ギャ ラリー
企画展	①茶碗の中の宇宙 楽家一子 相伝の芸術 ※1	NHK、NHKプロモー ション、日本経済 新聞社	3/14（火） ～ 5/21（日）	46	60,000	本館企画 展ギャラ リー
	②日本住宅建築展（仮称）	国際交流基金	7/19（水） ～ 10/29（日）	89	41,000	〃
	③没後40年 熊谷守一展（仮 称）	日本経済新聞社	12/1（金） ～ 3/21（水・祝）	91	83,000	〃
	企画展 計			226	184,000	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					368,000	

※1 通算の開催日数は63日間、目標入館者数は82,000人。

〈工芸館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	動物集合 こども×おとな工芸館（仮 称） 日本の工芸―自然を愛でる― （仮称） 近代工芸の名品（仮称）	－	4回展示替え	193	40,500	工芸館
企画展	①マルセル・ブロイヤーの家 具：Improvement for good ※1	－	3/3（金）　～　5/7（日）	34	10,000	本館ギャ ラリー4
	②辻清明展（仮称）	－	9/15（金）　～　11/23（木・祝）	60	12,000	工芸館
	企画展　計			94	22,000	
所蔵作品展　・　企画展　合計					62,500	

※1 通算の開催日数は60日間、目標入館者数は18,000人。

〈本館〉・〈工芸館〉	合計	430,500 人
	所蔵作品展	224,500 人
	企画展	206,000 人

〈フィルムセンター〉

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
上映会	①よみがえるフィルムと技術	—	5/13（土） ～ 5/21（日）	8	2,000	大ホール
	②EUフィルムデーズ2017	駐日欧州連合代表 部およびEU加盟国 大使館・文化機関	5/26（金） ～ 6/22（木）	24	8,500	大ホール
	③映画プロデューサー 佐々 木史朗	—	6/27（火） ～ 7/16（日）	18	5,500	大ホール
	④特集・逝ける映画人を偲ん で 2015－2016	—	7/20（木）～9/10（日）, 11/9（木）～11/10（金）, 11/14（火）～11/17（金）, 11/21（火）～11/23(木・祝)	55	24,000	大ホール
	⑤第39回PFF	PFFパートナーズ, 公益財団法人ユニ ジャパン	9/16（土） ～ 9/29（金）	12	4,000	大ホール （一部小 ホール）
	⑥シネマの冒険 闇と音楽 2017	—	10/17（火） ～ 10/22（日）	6	1,500	大ホール
	⑦ジョージ・イーストマン博 物館 映画コレクション（仮 称）	ジョージ・イース トマン博物館, 東 京国際映画祭, モーション・ピク チャー・アソシ エーション （MPA）, アメリ カ合衆国大使館	10/25（水） ～ 11/5（日）	11	3,500	大ホール
	⑧国交回復60周年 チェコ映 画の全貌（仮称）	チェコ国立映画 アーカイブ, チェ コセンター	11/28（火） ～ 12/24（日）	24	5,500	大ホール
	⑨ソニー・ピクチャーズ エ ンタテインメント コレク ション（仮称）	—	1/5（金） ～ 1/25（木）	18	5,500	大ホール
	⑩発掘された映画たち2018	—	1/30（火） ～ 3/4（日）	30	6,500	大ホール
	⑪自選シリーズ 現代日本の映画監督6（仮 称）	—	3/13（火） ～ 3/25（日）	12	4,000	大ホール
	⑫京橋映画小劇場No.35 アンコール特集（仮称）	—	6/28(水), 7/5(水), 7/7(金)～7/9(日), 7/12(水), 7/14(金)～7/16(日), 7/19(水), 7/26(水), 10/11(水), 10/25(水), 11/8(水), 11/22(水), 12/6(水)	16	2,000	小ホール
	⑬京橋映画小劇場No.36 ドキュメンタリー作家 羽田 澄子 Part2（仮称）	—	11/9（木） ～ 11/19（日）	10	1,500	小ホール （一部大 ホール）
上映会 計				244	74,000	
展覧会	①人形アニメーション作家 持永只仁	—	5/13（土） ～ 9/10（日）	104	5,500	
	②生誕100年 ジャン＝ピエ ール・メルヴィル、暗黒映画の 美（仮称）	—	9/26（火） ～ 12/10（日）	66	3,000	
	③ポスターでみる映画史Part 3 怪獣・SF映画の世界（仮 称）	—	1/4（木） ～ 3/25（日）	70	5,000	
	展覧会 計			240	13,500	
上映会 ・ 展覧会 合計					87,500	

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	6回展示替え	299	118,000
企画展	①endless 山田正亮の絵画 ※1	東京国立近代美術 館	3/1（水） ～ 4/9（日）	8	3,000
	②戦後ドイツの映画ポスター ※2	東京国立近代美術 館フィルムセン ター	4/19（水） ～ 6/11（日）	(47)	(30,000)
	③技を極めるーヴァン ク リーフ&アーペル ハイジュ エリーと日本の工芸	日本経済新聞社	4/29（土） ～ 8/6（日）	85	80,000
	④絹谷幸二展（仮称）	毎日新聞社，京都 新聞	8/22（火） ～ 10/15（日）	48	25,000
	⑤岡本神草展（仮称）	—	11/1（水） ～ 12/10（日）	35	20,000
	⑥ゴッホ展 巡りゆく日本の 夢	NHK京都放送局， NHKプラネット近 畿，京都新聞	1/20（土） ～ 3/4（日）	38	130,000
	企画展計			214	258,000
	所蔵作品展 ・ 企画展 合計				

※1 通算の開催日数は35日間, 目標入館者数は10,000人。

※2 コレクション・ギャラリーで開催する企画展のため, 合計には計上しない。

(国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	289	321,500
企画展	①シャセリオー展 —19世紀 フランス・ロマン主義の異才 ※1	TBS, 読売新聞社	2/28（火） ～ 5/28（日）	51	87,000
	②アルチンボルド展	NHK, NHKプロモーション, 朝日新聞社	6/20（火） ～ 9/24（日）	86	160,000
	③北斎とジャポニスム HOKUSAIが西洋に与えた衝撃	読売新聞社 , 日本テレビ	10/21（土） ～ 1/28（日）	82	245,000
	④プラド美術館展 ベラスケ スと絵画の栄光 ※2	読売新聞社	2/24（土） ～ 5/27（日）	32	128,000
	企画展 計			251	620,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					941,500

※1 通算の開催日数は80日間, 目標入館者数は125,000人。

※2 通算の開催日数は82日間, 目標入館者数は328,000人。

(国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	2回展示替え	137	102,500
企画展	①クラーナハ展—500年後の 誘惑 ※1	TBS, MBS, 朝日新聞社	1/28 (土) ～ 4/16 (日)	14	19,000
	②おとろえぬ情熱、走る筆。 ピエール・アレシンスキー展	毎日新聞社	1/28 (土) ～ 4/9 (日)	8	3,000
	③ライアン・ガンダー —こ の翼は飛ぶためのものではな	—	4/29 (土) ～ 7/2 (日)	57	11,000
	④ボイマンス美術館所蔵ブ リュエゲル「バベルの塔」展 16世紀ネーデルラントの至宝 —ボスを超えて—	朝日新聞社	7/18 (火) ～ 10/15 (日)	80	124,000
	⑤福岡道雄 つくらない彫刻 家	—	10/28 (土) ～ 12/24 (日)	50	14,000
	⑥態度が形になるとき —安 齊重男による日本の70年代美 術—	—	10/28 (土) ～ 12/24 (日)	50	7,000
	⑦開館40周年記念展「one after another」(仮称)	—	1/21 (日) ～ 5/6 (日)	60	18,000
	企画展 計			319	196,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					298,500

※1 通算の開催日数は68日間、目標入館者数は 91,000人。

※2 通算の開催日数は62日間、目標入館者数は 22,000人。

※3 通算の開催日数は92日間、目標入館者数は 39,000人。

(国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
企画展	①国立新美術館開館10周年 草間彌生 わが永遠の魂 ※1	朝日新聞社, テレ ビ朝日	2/22 (水) ～ 5/22 (月)	46	65,000
	②国立新美術館開館10周年 チェコ文化年事業 ミュシャ 展 ※2	NHK, NHKプロモー ション, 朝日新聞 社	3/8 (水) ～ 6/5 (月)	58	149,000
	③国立新美術館開館10周年 ジャコメッティ展	マーグ財団美術 館, TBS, 朝日新聞 社	6/14 (水) ～ 9/4 (月)	72	164,000
	④サンシャワー：東南アジア の現代美術展 1980年代から 現在まで	森美術館, 国際交 流基金アジアセン ター	7/5 (水) ～ 10/23 (月)	96	38,000
	⑤国立新美術館開館10周年 安藤忠雄展—挑戦—	TBS, 朝日新聞社	9/27 (水) ～ 12/18 (月)	72	99,000
	⑥新海誠展 「ほしのこえ」 から「君の名は。」まで	東宝, 朝日新聞 社, コミックス ウェブフィルム	11/15 (水) ～ 12/18 (月)	30	46,000
	⑦20th DOMANI・明日展	文化庁	1/12 (金) ～ 2/19 (月)	34	13,000
	⑧至上の印象派展 ビュール レ・コレクション ※3	東京新聞, NHK, NHKプロモーション	2/14 (水) ～ 5/7 (月)	40	167,000
企画展 計				448	741,000

※1 通算の開催日数は80日間、目標入館者数は112,000人。

※2 通算の開催日数は79日間、目標入館者数は204,000人。

※3 通算の開催日数は72日間、目標入館者数は300,000人。

別表2 各館の平成29年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
楽歴代	京都国立近代美術館	ア
日本の住宅建築	東京工業大学, イタリア国立21世紀美術館, バービカン・センター	ア
熊谷守一と明治・大正・昭和期の洋画	愛媛県美術館	ア
横山大観	京都国立近代美術館	ア
都市におけるアートプロジェクト (ゴードン・マッタ＝クラークを中心に)	ゴードン・マッタ＝クラーク・エステート, 山梨大学	ア
アジアの戦後美術における文化的抵抗の系譜	韓国国立近現代美術館, シンガポール国立美術館	ア
「MOMATコレクション」	—	ア
「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」	—	ア
「コレクションによる小企画 彫刻を作る／語る／見る／聞く」	—	ア
「コレクションを中心とした小企画 難民(仮称)」	—	ア
デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	西川茂(写真家)	ア
国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発、並びに国立国会図書館サーチ及び文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	—	ウ
アート・ディスカバリー・グループ目録(Art Discovery Group Catalogue)への参加可能性の検討	—	ウ
所蔵作品に関する公開データの拡充(独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に)	—	ウ
エントランスホール等共用部の環境整備	西澤徹夫建築事務所	エ
美術館におけるブランディング及びヴィジュアル・アイデンティティ	—	エ
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会, 東京都中学校美術研究会	イ
美術館の所蔵作品を活用した探究的な鑑賞教育プログラムの開発	科学研究費補助金, 2年目	イ
近代日本のタイムカプセル研究: ハーバード大学アーカイブズの成立との関係性を中心に	科学研究費基金, 2年目	エ

〈工芸館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
マルセル・ブロイヤーとモダン・デザイン	ミサワホーム総合研究所	ア
辻清明	—	ア
樂家歴代と十五代吉左衛門	京都国立近代美術館	ア
近代工芸における動物モチーフ	—	ア、イ
鈴木長吉と明治工芸	東京藝術大学	ア
近代工芸の歴史と展開	高岡市美術館，新潟市美術館	ア
近・現代陶芸の歴史と作品	石川県立美術館	ア
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会	イ
児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	—	イ

〈フィルムセンター〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
よみがえったフィルム、発掘された映画	—	ア
ヨーロッパ諸国の映画	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	ア
映画プロデューサー 佐々木史朗	—	ア
近年逝去した映画人	—	ア
日本の自主映画	PFFパートナーズ，公益財団法人ユニジャパン	ア
無声映画作品の特質と上映について	—	ア
ジョージ・イーストマン博物館 映画コレクション	ジョージ・イーストマン博物館，東京国際映画祭	ア
チェコ映画の全貌	チェコ国立映画アーカイブ，チェコセンター	ア
ソニー・ピクチャーズの映画史	—	ア
現代日本の映画監督	—	ア
ドキュメンタリー作家 羽田澄子	—	ア
人形アニメーション作家 持永只仁	日本アニメーション学会（予定）	ア
映画監督ジャン＝ピエール・メルヴィル	アンスティチュ・フランセ日本	ア
海外・日本の怪獣映画・SF映画の系譜	—	ア
東京の生活を描いた文化・記録映画	東京国際フォーラム	ア
国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会員，その他同種機関，現像所等からの情報に基づく，未発見の日本映画フィルムの所在調査	FIAF会員，国内外の同種機関，現像所	ア

文化庁との共同事業「近代歴史資料調査」，文化庁美術館・歴史博物館重点分野推進事業の結果に基づき，新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	記録映画保存センター，神戸映画保存ネットワーク，早稲田大学演劇博物館	ア
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録，アナログ及びデジタル技術を活用した復元，及び映写	FIAF会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，美術館・博物館，映像機器メーカー，現像所等	ア
映画におけるデジタル保存と活用	FIAF会員，国内外の同種機関，映画研究教育機関，IT関連研究教育機関，映画製作会社，映画関連団体，放送局，映像機器メーカー，現像所，IT関連会社等	ア
不明となっている所蔵作品の権利帰属等の情報収集と調査	映画製作会社等諸団体	ア
映画の撮影及び現像時における技術データ	映画製作会社，関連職能組合，現像所等	ア
映画資料を整理するとともに，その画像をデジタル化し，活用することを目的とする事業	—	ウ
こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
社会人を対象にした映画教室プログラム	—	イ
褐色したカラー映画の復元と長期保存に関する基礎的研究	科学研究費基金，2年目	ア
70ミリ映画のアーカイブにむけた基盤形成	科学研究費補助金，2年目	ア

（京都国立近代美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
山田正亮	東京国立近代美術館	ア
戦後ドイツの映画ポスター	東京国立近代美術館フィルムセンター，ドイツ映画研究所	ア
技を極めるーヴァン クリーフ&アーペル ハイジュエリーと日本の工芸	—	ア
絹谷幸二	—	ア
岡本神草	笠岡市立竹喬美術館，千葉市美術館	ア
ゴッホとジャポニスム	北海道立近代美術館，東京都美術館，ファン・ゴッホ美術館	ア
コレクションを活用したキュレトリアル・スタディズ： デュシャン《泉／Fountain》の創造的解読	—	ア
日本におけるバウハウス：新建築工芸学院を中心に	東京国立近代美術館工芸館，早稲田大学	ア，エ
ウィーン世紀末のグラフィック	大阪新美術館建設準備室	ア，イ
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	京都市図画工作研究会	イ

（国立西洋美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
シャセリオー展 19世紀フランス・ロマン主義の異才	ルーヴル美術館	ア
アルチンボルド展	—	ア
北斎とジャポニスム	—	ア

プラド美術館展（仮称）	プラド美術館	ア
スケーエン：デンマークの芸術家村	スケーエン美術館	ア
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	—	ア
中世末期から20 世紀初頭の西洋美術	—	ア
所蔵版画作品	—	ア
美術館教育	—	イ
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	—	ア
在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究	科学研究費補助金，2年目	ア
美術作品や歴史資料における彩色の膠着材の同定—複数の分析法からのアプローチ	筑波大学 科学研究費基金，2年目	ア

（国立国際美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品	—	ア
現代美術の動向	—	ア
ライアン・ガンダー	—	ア
福岡道雄	—	ア
安齊重男	—	ア
ボルタンスキー	国立新美術館，長崎県美術館	ア
森村泰昌	プーシキン美術館，フォンダチオーネ・フォトグラフィア・モデナ	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	—	イ
美術館教育	—	イ
現代美術の保存修復	京都市立芸術大学	ア
所蔵作品展のキュレーションについて	—	ア
パフォーマンス作品	—	ア
国内外のキュレトリアルリサーチ	現代美術センターCCA北九州，国際交流基金	ウ，エ

（国立新美術館）

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
ジャコメッティ	マーグ財団美術館	ア
東南アジアの現代美術の動向	森美術館，国際交流基金	ア

安藤忠雄	—	ア
印象派	ビュールレ・コレクション財団	ア
肖像画	ルーヴル美術館	ア
ボルタンスキー	国立国際美術館，長崎県美術館	ア
ドイツ表現主義	—	ア
日本のマンガ，アニメ，ゲーム	一般社団法人 マンガアニメ展示促進機構	ア
日本のファッションとデザイン	—	ア
美術館の教育普及事業（ワークショップ，鑑賞ガイド等）	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	—	ウ
美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	—	ウ
美術情報の収集・提供システム	—	ウ
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ